

道徳のお話（第3回）

道徳のお話の第3回目として、道徳的価値項目の「強い意志」の話題を提供します。主に下の絵で説明します。この話は、佐倉市にゆかりのある津田仙の子どもの津田梅子の話です。そう。津田梅子といえば、2024年に発行が予定されているのお札の絵柄の人物です。津田梅子の幼少期の話です。これを現代の社会問題に当てはめると小1プロブレムに似ています。この話のテーマは、「強い意志」ですが、「親子の信頼関係」も考えさせられる話です。お子さんと話すときのポイントは、「お父さん、お母さんだったら、こうするよ。」です。



梅子は、6歳のときに父（仙）の勧めにより北海道開拓師の留学生に参加しました。留学生たちは、政治家岩倉具視の使節団のメンバーです。使節団の目的は、西洋の制度や文化を学ぶためです。梅子たち留学生の目的は、海外の女子教育を学ぶことです。この頃の日本の女性は、家での家事育児が優先され、自分の思った通りに生きることができませんでした。海外ではどうだろうという疑問から留学生の募集が始まりました。

梅子は、船に乗り、アメリカのサンフランシスコに向かいました。6歳の梅子にとって、お父さん、お母さんから離れることは大変つらかったと思います。しかし、それを乗り越えて、現地で英語や数学、物理学、天文学、フランス語、ラテン語などを学び、次々と新しいことに挑戦しました。梅子は日本へ帰ってから、伊藤博文の誘いを受けて、英語教師として働き、そして、日本の女性教育の発展のために、学校を造りました。

このような話をしていただき、お子さんに

「梅子は、どうして、お父さん、お母さんから離れ、遠いアメリカで勉強したのだろう。」と質問してください。ポイントは、「教える」のではなく、「お父さん、お母さんはこう思うよ」です。たとえば、「お父さんは、つらいな。」でもよいのです。家族のそれぞれの思いが共有できれば、このお話の提供は大成功です。